

## 株式会社いばらき森林サービス

[法人の概要]

平成19年7月1日現在

代表者名	代表取締役社長 角田芳夫(非常勤)	県所管部課	農林水産部 林政課	
所在地	常陸太田市東染町470	電話番号	0294-70-5111	
ホームページURL	<a href="http://business2.plala.or.jp/s-forest">http://business2.plala.or.jp/s-forest</a>	E-mailアドレス	<a href="mailto:s-forest@atlas.plala.or.jp">s-forest@atlas.plala.or.jp</a>	
資本金	200,000 千円	設立年月日	平成7年7月28日	
主な出資者	出資順位	出資者名	出資額	出資比率
	1	茨城県	100,000 千円	50.0 %
	2	常陸大宮市	23,650 千円	11.8 %
	3	常陸太田市	22,900 千円	11.5 %
	4	大子町	15,600 千円	7.8 %
	5	日立市	10,600 千円	5.3 %
その他	8 団体		27,250 千円	13.6 %
設立目的	安定した就労条件により林業労働力を確保し、高性能林業機械を活用した近代的な生産体制のもとに、活力ある林業の展開と健全な森林の育成を目的とする森林整備の推進母体として、官民共同出資により設立された。 (主な事業内容) ①立木の伐採、搬出、運搬及び販売 ②造林及び保育等の森林管理 ③高性能林業機械の技能研修、レンタル及びリース ④森林及び立木の評価 ⑤林産物の加工及び販売			

[事業の概要]

事業名	平成19年度事業費	内容
事業1 森林整備事業	35,000 千円	下刈り等の保育及び間伐等の実施により適正な管理を推進し、健全な森林の育成と公益的機能の持続的な発揮に努める。
事業2 県有林管理事業	15,000 千円	県有林における下刈り、間伐等の実施により県有財産としての森林の適正な管理を行う。
事業3 緑の雇用担い手育成対策事業	2,000 千円	森林整備の担い手となりうる者に対し、作業に必要な高度な技術を身につけさせる為、技術研修等を実施し、安定的かつ持続的な労働力の確保に努める。

[組織]

7月1日現在の人数	平成17年		平成18年		平成19年		
	県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB	
役員	常勤取締役	1	0	1	1	0	1
	非常勤取締役	9	0	0	8	0	0
	常勤監査役	0	0	0	0	0	0
	非常勤監査役	2	0	0	2	0	0
	計	12	0	1	11	0	1
職員	管理職	2	0	0	2	0	0
	一般職	5	0	0	5	0	0
	臨時職員	1	0	0	1	0	0
	嘱託職員	1	0	0	1	0	0
	計	9	0	0	9	0	0
当期常勤職員の年齢構成	20代以下	30代	40代	50代以上	合計	平均年齢	平均勤続年数
	4	2	1	1	8	34歳 3月	9年 6月

## [収支の状況]

株式会社いばらき森林サービス

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
収 支 の 状 況	売上高	211,039	155,023	133,744
	売上原価	148,479	106,233	76,738
	売上総利益	62,560	48,790	57,006
	販売費及び一般管理費	40,871	48,912	53,649
	うち管理費	12,064	12,104	10,905
	うち人件費	28,807	36,808	42,744
	営業利益	21,689	△ 122	3,357
	営業外収益	371	399	354
	営業外費用	0	0	10
	経常利益	22,060	277	3,701
	特別利益	0	0	130
	特別損失	6	169	392
	税引前当期純利益	22,054	108	3,439
	法人税, 住民税, 事業税	6,160	865	2,868
	当期純利益	15,894	△ 757	571
	前期繰越金	△ 2,102	13,792	13,035
	当期未処分利益	13,792	13,035	13,606
利益処分・損失補填額	0	0	0	
次期繰越金	13,792	13,035	13,606	
財 産 の 状 況	資産	266,142	233,830	270,863
	流動資産	248,394	217,617	253,857
	固定資産	17,748	16,213	17,006
	繰延資産	0	0	0
	負債	52,350	20,795	57,257
	流動負債	37,967	4,112	38,764
	うち短期借入金	0	0	0
	固定負債	14,383	16,683	18,493
	うち長期借入金	0	0	0
	資本	213,792	213,035	213,606

## [財務関与の状況]

(単位:千円)

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
財 務 関 与 状 況	補助金	712	873	861
	委託金	72,628	9,780	2,980
	貸付金			
	計	73,340	10,653	3,841
	財政的関与の割合(%)	35%	7%	3%
損失補償・債務保証				

## [平成18年度の補助金等の目的・内容等]

支 出 項 目	目 的 ・ 内 容 ・ 効 果
補助金	名称: 森林整備担い手対策事業 内容: 林業従事者(社員)の, 社会保険(健康保険, 厚生年金等)の掛金に対する助成 効果: 林業従事者(社員)の, 就労条件の整備が図られた
委託金	名称: 森林施業効率化促進事業 内容: 高性能林業機械の操作技術者養成研修の実施 効果: 高性能林業機械の活用促進により, 森林施業の効率アップと木材生産コストの縮減が図られた
貸付金	該当なし

[評価総括]

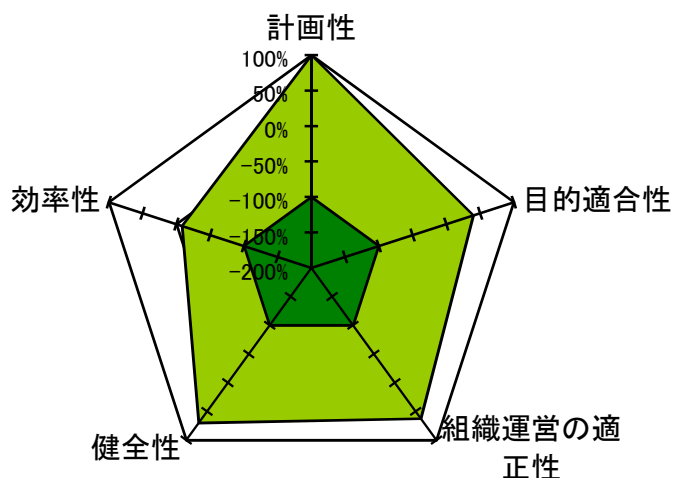
評価の視点	評価項目数	評点	満点	得点率
計画性	4	8	8	100.0%
目的適合性	4	4	10	40.0%
組織運営の適正性	4	5	8	62.5%
健全性	11	28	40	70.0%
効率性	7	-2	24	-8.3%
合計	30	43	90	47.8%

企業会計用

株式会社いばらき森林サービス

警戒指標

経営評価レーダーチャート



《評価の視点》

計画性	経営目的、経営方針が各種計画に反映され、計画・実行・見直しが行われているか
目的適合性	法人が行っている事業と当初の設立目的が適合しているか
組織運営の適正性	組織、人事、財務等の内部管理体制が適切に整備・運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切か
健全性	法人の財務体質が健全であるか、また、各事業の採算性がとれているか
効率性	組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているか

各評価項目については、「出資法人等経営評価指標及び評価基準等」を参照

[法人の自己評価(経営概況, 経営上の課題・対策等)]

計画性	目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
<p>林業・木材産業が停滞するなか、安定的な経営を図るため、森林整備事業関連業務を幅広く実施する。</p> <p>また、県有林事業の受託に努めるとともに、造林・治山等の公共事業の森林整備事業にも取り組み、計画的で安定した経営に努めていく。</p>	<p>森林所有者の経営意欲は減退しているが、地球温暖化防止対策等の観点から森林整備に対する要請は高まっており、公的関与による森林整備推進の必要性の検討も進んでいる。</p> <p>今後は、さらに森林所有者等に森林管理の必要性のPRなど、きめ細かな営業活動を継続的に行い、目的業務の確保に努める。</p>	<p>事業規模や箇所数から、現在の社員構成では業務に対応できないため、他の事業体に依存せざるを得ない状況にある。従って、受注量に対し効率や利益の面で課題となっている。このため、社内労働力の増強を図り、受注した業務については計画的に自社で実施するよう努める必要がある。</p>	<p>当期経常利益が4期連続で黒字となり、当期純利益を計上することが出来た。</p> <p>今後も、継続的な安定経営を図るため、各費用項目を分析し売上高利益率を高める。</p>	<p>職員1人当たりの管理費は低くなっているものの、売上高経常利益率は下がっている。</p> <p>今後は、さらに営業力を強化し事業量の拡大に努め、職員1人当たりの経常利益の増加を図るとともに、事業量を見極めながら人員を配置していく。</p>
今後の事業展開の方向	<p>平成18年度末の決算においては、4期連続で経常利益を計上することが出来たが、更なる安定した経営を維持するためには、なお改善すべき課題もある。</p> <p>具体的には、積極的且つ広範囲な営業活動を行うとともに、技術力の向上及び労働力の安定的な確保を図ることにより、大口の森林整備事業等にも対応できるような体制を整えていく。</p>			

[法人を担当する課の意見]

計画性		目的適合性	組織運営の適正性	健全性	効率性
<p>林業生産活動が停滞するなかにあって安定的な経営を図るためには、森林整備の重要性をPRするとともに、営業活動の強化による間伐をはじめとした森林整備の新たな事業を進め売上高のアップを図りつつ、内部経費の節約に努め、経営の健全化を進める必要がある。</p>		<p>森林のもつ公益的機能への期待が高まりを見せ、間伐など森林整備の必要性が叫ばれているが、森林組合の活動が停滞しているなかで、それを補完する森林整備の担い手としての当社への期待は高い。</p>	<p>設立目的を実施するうえで、必要最小限の組織である。</p>	<p>県有林管理における植栽・下刈・間伐などの現地施行(ハード)部門を受託しており、一定の事業量を確保している。今後も管理事業を受託し事業量の安定化を図りつつ、造林・治山等の公共事業に係る森林整備事業関連業務についても幅広く受託するとともに、支障木伐採など当社の技術を活かした業務の拡大に努め安定した経営に努める必要がある。</p>	<p>新聞へ広告を掲載するなど会社のPRを行うほか、各種研修への参加により技術力の向上を図るなど、業務の効率性の向上に取り組んでいる。</p>
<p>推進事項</p>		<p>1 売上拡大への取組強化 植栽、保育(下刈・間伐等)などの森林管理を積極的に推進するとともに、広報体制の充実や積極的な営業活動を展開し業務の拡大を図る。</p> <p>2 経営の効率化 機械の維持経費の削減や、職員の技術力向上等により経営の効率化を図る。</p> <p>3 組織のあり方の検討 森林整備の活性化が見込まれる中で、需要量を見極めながら団体のあり方を検討する。</p>			
改革 工程 表等 の 取 組 状 況	平成18年度		平成19年度		平成20年度
	計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理の推進(平成18年度目標:植栽5ha, 保育100ha)</li> <li>・営業担当を明確化し、積極的な営業活動を展開</li> <li>・会社ホームページを見直し、内容を充実化</li> <li>・需要量を見極めながら会社のあり方を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理の推進(平成19年度目標:植栽5ha, 保育110ha)</li> <li>・ホームページアクセス件数の増加(平成19年度目標:400件)</li> <li>・機械の更新(バックホウ1台)</li> <li>・職員提言コンペの実施</li> <li>・需要量を見極めながら会社のあり方を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理の推進(平成20年度目標:植栽6ha, 保育120ha)</li> <li>・ホームページアクセス件数の増加(平成20年度目標:500件)</li> <li>・作業機械の更新(フォワーダ1台)</li> <li>・職員提言コンペの実施</li> <li>・需要量を見極めながら会社のあり方を検討</li> </ul>	
	取 組 状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理業務の事業確保に努めた結果、植栽10.86ha, 保育144.75haを実施した。</li> <li>・営業担当の明確化とともに、積極的な営業活動を展開し、営業受託件数が37件となった。</li> <li>・会社ホームページを更新した。</li> <li>・現場での森林状況の確認、森林所有者への聞き取り等により需要量の情報収集に努めた。</li> </ul>	-	-	
法人担当課の意見		<p>当社では、平成15年度までは累積欠損金が生じていたものの、第3次行財政改革大綱に基づいた経営努力の結果、平成16年度には累積欠損を解消した。平成17年度以降も引き続き経常利益が黒字となった。設立目的である森林整備の担い手としては、現在、林業が低迷を続ける中でその活動の場が限られているが、間伐をはじめとした森林整備の必要性が高まり、全国的にも新たな方策による森林整備が進められ、県内における間伐などの事業量も増加する動きがある中で、営業努力によりこれらの事業の受託を進めることで売上高が増加し経営の安定化につながるものと考えられる。</p>			

[総合評価]

取組みを強化すべき視点	<p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">計画性</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-left: 20px;">目的適合性</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-left: 20px;">組織運営の適正性</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-left: 20px;">健全性</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-left: 20px;">効率性</span> </p>
総合的所見等	<p style="text-align: center;"> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">概ね良好</span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-left: 20px;">改善の余地がある</span> <span style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-left: 20px;">緊急の改善措置が必要</span> </p>
	<p>林業経営の構造的問題を抱えながら、3期連続で経常利益を確保したことは評価できるが、公共事業や県有林管理事業に依存していることから、営業活動に力を注いで新規顧客の開拓を図る必要がある。</p> <p>県では、環境保全の観点から県民が森林の健全育成に協力する森林湖沼環境税を平成20年4月に導入することとしており、県北山間部の振興や森林の重要性(環境、健康、癒し)及び林業への理解などから森林整備ニーズの高まりが予想される。今後の森林整備を担っていくためには、機械装置の老朽化への対応を含め、山林管理のコスト縮減、若手林業者の育成など民有林所有者の立場に立ったサービスに努めるとともに、団体のあり方について引き続き検討されたい。</p>

総合的所見等に係る対応	<p>林業が低迷を続ける中で、森林所有者からの森林管理業務を確保し、経営の安定化を図るため、引き続き、森林整備の必要性の周知や経営相談等の営業活動を積極的に行うとともに、職員の生産技術向上や林業機械の更新等により生産コストを削減して所有者への収益還元を努めるよう指導していく。</p> <p>また、森林の二酸化炭素吸収機能の向上や適正な森林整備を推進するための森林湖沼環境税の導入など国及び県の施策により間伐事業量の増大が見込まれているが、森林組合等では作業員の減少・高齢化が進行し、林業労働力の不足が懸念されている。このため、高性能林業機械を活用した効率的な作業システムの普及定着とともに、若い林業技術者の育成や就労条件を充実させ、担い手の確保と活力ある林業産業全体の底上げを行う会社としてその存在意義を明らかにするとともに、毎年度、これらの事業の取組状況を検証していく。</p>
-------------	---

< 株式会社いばらき森林サービス から県民のみなさまへ >

<p>森林は、水資源のかん養、山地災害の防止、さらには二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止のほか、身近な保健休養や森林レクリエーションの場として、その役割はますます期待されています。</p> <p>一方で、木材価格の低迷等により、管理不足による森林の荒廃が年々進行しているとともに、林業労働者の減少・高齢化により森林の手入れも困難な状況となってきています。</p> <p>このような状況の中、当社は林業技術者を育成し、林業の担い手として間伐などの森林作業を行うことを目的に設立されました。しかし、森林所有者の経営意欲の喪失など厳しい環境の中、事業の安定的な確保が困難な状況にあるため、経営改善計画を策定し、営業活動を重点的に実施した結果、収益性が改善されてきました。</p> <p>これからも、設立趣旨に沿った事業を一層拡大するため、新規顧客の開拓に向けた営業活動を更に活発化し、森林所有者等の要請に応えた事業取組みを推進するとともに、併せて経営改善に努めて参りますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">平成20年2月 代表取締役社長 角田 芳夫</p>
---